

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2016年8月1日
【四半期会計期間】	第71期第1四半期（自 2016年4月1日 至 2016年6月30日）
【会社名】	太陽ホールディングス株式会社
【英訳名】	TAIYO HOLDINGS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 英志
【本店の所在の場所】	東京都練馬区羽沢二丁目7番1号
【電話番号】	03(5999)1511(代表)
【事務連絡者氏名】	社長室長 稲垣 均
【最寄りの連絡場所】	東京都練馬区羽沢二丁目7番1号
【電話番号】	03(5999)1511(代表)
【事務連絡者氏名】	社長室長 稲垣 均
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第70期 第1四半期連結 累計期間	第71期 第1四半期連結 累計期間	第70期
会計期間	自 2015年 4月1日 至 2015年 6月30日	自 2016年 4月1日 至 2016年 6月30日	自 2015年 4月1日 至 2016年 3月31日
売上高 (百万円)	12,447	11,306	49,843
経常利益 (百万円)	2,616	2,153	11,129
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	1,764	1,876	7,796
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,308	399	5,891
純資産額 (百万円)	43,055	43,453	45,250
総資産額 (百万円)	63,837	63,238	65,464
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	76.78	82.79	337.99
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	64.0	65.9	65.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2. 売上高には消費税等は含まれていません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、関係会社における異動は次のとおりです。

[その他]

非連結子会社であった太陽グリーンエナジー株式会社は経営戦略上の重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めています。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社が判断したものです。

製商品品目については以下の略語を使用しています。

略 語	内 容
PWB	プリント配線板
PKG	半導体パッケージ

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国経済は景気の回復が続いているものの、欧州経済は景気回復の鈍化がみられました。中国経済においても減速傾向に歯止めはかからず、伸びは横ばいとなりました。一方、日本経済においては景気の改善に足踏み感がみられるものの、企業収益は高い水準にあり、緩やかな回復基調が続いています。

当社グループの関連市場である電子部品業界については、サーバー及び車載関連部材の需要は堅調に推移しましたが、スマートフォン関連部材の需要は減速が続いています。

このような状況の下、為替が円高に推移した影響を主要因として、当第1四半期連結累計期間の売上高は11,306百万円（前年同期比9.2%減）となりました。

リジッド基板用部材については、販売数量は前年同期並みの水準で推移しましたが、為替が円高に推移した影響もあり、売上高は前年同期を下回りました。この結果、売上高は7,971百万円（前年同期比9.0%減）となりました。

PKG基板用及びフレキシブル基板用部材については、高機能品の低調な販売や為替が円高に推移した影響もあり、販売数量及び売上高ともに前年同期を下回りました。この結果、売上高は2,270百万円（前年同期比14.9%減）となりました。

以上の結果、営業利益は2,139百万円（前年同期比17.8%減）、経常利益は2,153百万円（前年同期比17.7%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,876百万円（前年同期比6.4%増）となりました。

（製商品品目区分による販売実績）

第1四半期連結累計期間における製商品品目別の販売実績は次のとおりです。

製商品品目の名称		前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前期比	
				増減額 (百万円)	増減率 (%)
PWB用 部材	リジッド基板用部材	8,756	7,971	785	9.0
	PKG基板用及び フレキシブル基板用部材	2,666	2,270	396	14.9
	ビルドアップ基板用部材	257	275	18	7.2
その他 関連商材	-	767	788	21	2.8
合 計		12,447	11,306	1,141	9.2

全製商品における割合が僅少であるため、当第1四半期連結累計期間よりFPD（フラットパネル・ディスプレイ）用部材の販売実績は、その他関連商材として報告しています。

セグメントの業績は以下のとおりです（売上高にはセグメント間の内部取引が含まれています）。

日本

日本を構成する連結会社は太陽インキ製造株式会社及び中外化成株式会社です。

PKG基板用部材は、スマートフォン関連部材の需要が低調に推移したことに加え、為替が円高に推移した影響もあり、売上高及び利益ともに前年同期を下回りました。

この結果、売上高は4,052百万円（前年同期比5.4%減）、セグメント利益は316百万円（前年同期比58.6%減）となりました。

中国（含む香港）

中国を構成する連結会社は太陽油墨（蘇州）有限公司、永勝泰油墨（深圳）有限公司、TAIYO INK INTERNATIONAL（HK）LIMITED及び太陽油墨貿易（深圳）有限公司です。なお、永勝泰油墨（深圳）有限公司は永勝泰科技股份有限公司の子会社です。

リジッド基板用部材は、車載関連部材を中心に販売が堅調に推移したものの、為替が円高に推移した影響もあり、売上高は前年同期を下回りました。一方、低価格品から高価格品へのシフト等により、利益は前年同期を上回りました。

この結果、売上高は4,970百万円（前年同期比6.2%減）、セグメント利益は1,108百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

台湾

台湾を構成する連結会社は台湾太陽油墨股份有限公司及び永勝泰科技股份有限公司（その他 子会社 2 社）です。

リジッド基板用部材は、スマートフォン関連部材の需要が伸び悩み、為替が円高に推移した影響もあり、売上高及び利益ともに前年同期を下回りました。

この結果、売上高は2,007百万円（前年同期比21.6%減）、セグメント利益は396百万円（前年同期比28.7%減）となりました。

韓国

韓国を構成する連結会社は韓国タイヨウインキ株式会社及び太陽インキプロダクツ株式会社です。

PKG基板用部材はスマートフォン関連部材の需要が低調に推移したことに加え、為替が円高に推移した影響もあり、売上高及び利益ともに前年同期を下回りました。

この結果、売上高は1,837百万円（前年同期比7.8%減）、セグメント利益は318百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

その他

その他を構成する連結会社はTAIYO AMERICA, INC.、TAIYO INK INTERNATIONAL（SINGAPORE）PTE LTD及び太陽グリーンエナジー株式会社です。

TAIYO AMERICA, INC.につきましては、前年同期並みの水準で推移しましたが、為替が円高に推移した影響もあり、売上高は前年同期を下回りました。

TAIYO INK INTERNATIONAL（SINGAPORE）PTE LTDにつきましては、車載関連部材を中心に堅調に推移したものの、為替が円高に推移した影響もあり、売上高は前年同期を下回りました。

なお、太陽グリーンエナジー株式会社は当第1四半期連結会計期間より連結子会社となりました。

この結果、売上高は992百万円（前年同期比9.5%減）、セグメント利益は141百万円（前年同期比4.7%増）となりました。

（2）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処する課題について、重要な変更はありません。

（3）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の金額は608百万円です。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
第1回A種種類株式	100,000
第2回A種種類株式	100,000
計	50,200,000

(注) 当社定款第6条に次のとおり規定しています。

「当社の発行可能株式総数は、50,200,000株とし、各種類の株式の発行可能種類株式総数は、次のとおりとする。普通株式：50,000,000株 第1回A種種類株式：100,000株 第2回A種種類株式：100,000株」

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2016年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2016年8月1日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	27,464,000	27,464,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
第1回A種種類株式	21,600	21,600	非上場	単元株式数100株 (注)
第2回A種種類株式	42,900	42,900	非上場	単元株式数100株 (注)
計	27,528,500	27,528,500	-	-

(注) 第1回ないし第2回A種種類株式の内容は次のとおりです。

() 譲渡制限

第1回ないし第2回A種種類株式を譲渡により取得する場合は、当社の取締役会の承認が必要となります。

() 普通株式を対価とする取得条項

当社は、第1回ないし第2回A種種類株式の全部を、次に定める日をもって取得するものとし、当該取得と引換えに、第1回ないし第2回A種種類株式を有する株主に対して、第1回ないし第2回A種種類株式1株につき普通株式1株を交付します。

第1回A種種類株式

第1回A種種類株式の最初の発行日の3年後の応当日

第2回A種種類株式

第2回A種種類株式の最初の発行日の3年後の応当日

() 普通株式を対価とする取得請求権

第1回ないし第2回A種種類株式の株主は、当社に対し、その保有する第1回ないし第2回A種種類株式の全部又は一部を当社が取得するのと引換えに、当社の普通株式を交付することを請求することができます。

第1回ないし第2回A種種類株式と引換えに交付すべき普通株式は、第1回ないし第2回A種種類株式1株につき普通株式1株とします。当該取得請求は、第1回ないし第2回A種種類株式の発行後いつでも、当該株式の株主について相続が開始した場合に限り、当該相続の対象となった当該株式についてのみ行うことができるものとします。

() 会社法第322条第2項に規定する定款の定めの有無

会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2016年6月27日(注)	42,900	27,528,500	76	6,265	76	7,232

(注) 第三者割当による第2回A種種類株式の発行に伴い、資本金及び資本準備金がそれぞれ76百万円増加しました。
有償第三者割当(第2回A種種類株式)
発行価格 3,585円
資本組入額 1,792.5円
割当先 佐藤英志(当社代表取締役)、鹿島世傑()、
森田孝行(当社取締役)、竹原栄治(当社取締役)、柿沼正久()
2016年6月21日をもって当社取締役を退任しています。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2016年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,378,900	743	(注)1
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,049,600	230,496	(注)2
	第1回A種種類株式 21,600	216	(注)3
	第2回A種種類株式 42,900	429	(注)3
単元未満株式	普通株式 35,500	-	-
発行済株式総数	27,528,500	-	-
総株主の議決権	-	231,884	-

(注) 1. 当社所有の自己株式4,304,600株及び日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が所有する74,300株が含まれています。
2. 普通株式の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が、100株含まれています。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個が含まれています。
3. 第1回及び第2回A種種類株式の内容については、「1 株式等の状況(1) 株式の総数等 発行済株式」に記載しています。

【自己株式等】

2016年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
太陽ホールディングス株式会社	練馬区羽沢2-7-1	4,304,600	74,300	4,378,900	15.90
計	-	4,304,600	74,300	4,378,900	15.90

(注) 他人名義で所有している理由等
「株式付与ESOP信託」の信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)東京都港区浜松町二丁目11番3号)が所有しています。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

(執行役員の状況)

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における執行役員の異動は次のとおりです。

退任執行役員

役名	氏名	退任年月日
常務執行役員	日高 勇	2016年6月30日

当四半期累計期間終了後、当四半期報告書提出日までの執行役員の異動は次のとおりです。

(1) 新任執行役員

役名	氏名	就任年月日
専務執行役員	齋藤 斉	2016年7月1日

(2) 執行役員の役職の異動

新役名	旧役名	氏名	異動年月日
専務執行役員	常務執行役員	三輪 崇夫	2016年7月1日

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しています。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,408	21,007
受取手形及び売掛金	12,836	12,169
商品及び製品	2,013	1,909
仕掛品	410	425
原材料及び貯蔵品	1,593	1,427
その他	1,417	754
貸倒引当金	339	304
流動資産合計	39,340	37,390
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,523	10,661
その他(純額)	9,120	9,075
有形固定資産合計	19,644	19,736
無形固定資産		
のれん	4,432	4,164
その他	486	474
無形固定資産合計	4,919	4,638
投資その他の資産		
その他	1,562	1,474
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	1,561	1,472
固定資産合計	26,124	25,848
資産合計	65,464	63,238
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,765	5,624
短期借入金	932	1,578
未払法人税等	776	880
その他	3,424	3,265
流動負債合計	10,898	11,349
固定負債		
長期借入金	7,413	7,094
その他	1,901	1,339
固定負債合計	9,315	8,434
負債合計	20,214	19,784

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,188	6,265
資本剰余金	7,304	7,381
利益剰余金	42,490	43,057
自己株式	14,141	14,141
株主資本合計	41,841	42,562
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	96	67
為替換算調整勘定	1,190	971
退職給付に係る調整累計額	12	7
その他の包括利益累計額合計	1,274	911
非支配株主持分	2,135	1,802
純資産合計	45,250	43,453
負債純資産合計	65,464	63,238

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
売上高	12,447	11,306
売上原価	7,016	6,311
売上総利益	5,431	4,994
販売費及び一般管理費	2,829	2,855
営業利益	2,601	2,139
営業外収益		
受取利息	27	18
受取配当金	4	34
その他	29	21
営業外収益合計	61	74
営業外費用		
支払利息	17	17
為替差損	24	38
その他	4	3
営業外費用合計	45	60
経常利益	2,616	2,153
特別利益		
固定資産売却益	3	-
厚生年金基金代行返上益	34	-
特別利益合計	37	-
特別損失		
固定資産売却損	0	-
減損損失	33	-
特別損失合計	33	-
税金等調整前四半期純利益	2,621	2,153
法人税、住民税及び事業税	1,243	938
法人税等調整額	457	698
法人税等合計	785	239
四半期純利益	1,835	1,913
非支配株主に帰属する四半期純利益	71	37
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,764	1,876

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
四半期純利益	1,835	1,913
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16	29
為替換算調整勘定	452	2,289
退職給付に係る調整額	4	4
その他の包括利益合計	472	2,313
四半期包括利益	2,308	399
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,183	309
非支配株主に係る四半期包括利益	125	90

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記)

第1四半期連結会計期間において、太陽グリーンエナジー株式会社は経営戦略上の重要性が増したため、連結の範囲に含めています。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期連結会計期間に適用し、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しています。

この変更に伴う、当第1四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号 平成27年3月26日)を適用しています。

(1)取引の概要

当社は、当社従業員の帰属意識の醸成と経営参画意識を持たせ、長期的な業績向上や株価上昇に対する意欲や士気の高揚を図るとともに、中長期的な企業価値向上を図ることを目的として、2014年5月2日開催の取締役会において、従業員インセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」の導入を決議しました。当社が当社従業員のうち一定の要件を充足する者を受益者として、当社株式の取得資金を拠出することにより信託を設定します。当該信託は予め定める株式交付規程に基づき当社従業員に交付すると見込まれる数の当社株式を、当社から一括して取得します。その後、当該信託は、株式交付規程に従い、信託期間中の当社従業員の資格等級等に応じた当社株式を、在職時に無償で当社従業員に交付します。当該信託により取得する当社株式の取得資金は全額当社が拠出するため、当社従業員の負担はありません。当該信託については、信託の資産及び負債を企業の資産及び負債として、貸借対照表に計上し、信託の損益を企業の損益として損益計算書に計上する方法(総額法)を適用しています。

(2)信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額(付随費用の金額を除きます。)により純資産の部に自己株式として計上しています。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当第1四半期連結会計期間末226百万円、74,390株です。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しています。

(四半期連結貸借対照表関係)
輸出手形割引高

	前連結会計年度 (2016年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2016年6月30日)
輸出手形割引高	38百万円	65百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
減価償却費	396百万円	506百万円
のれんの償却額	68	63

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2015年6月19日 定時株主総会	普通株式	1,036	45	2015年3月31日	2015年6月22日	利益剰余金

(注) 2015年6月19日定時株主総会の決議による配当金の総額には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式に対する配当金4百万円が含まれています。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2015年6月22日付で、第三者割当増資(第1回A種種類株式の発行)及び株式交換を行いました。この結果、資本金が53百万円増加、資本剰余金が160百万円増加、自己株式が383百万円減少し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が6,188百万円、資本剰余金が7,304百万円、自己株式が14,214百万円となっています。

当第1四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2016年6月21日 定時株主総会	普通株式	1,273	55	2016年3月31日	2016年6月22日	利益剰余金
	第1回A種 種類株式	1	55	2016年3月31日	2016年6月22日	利益剰余金

(注) 2016年6月21日定時株主総会の決議による配当金の総額には、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口)が保有する当社株式に対する配当金4百万円が含まれています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 4	合計
	日本 (注) 1	中国 (注) 2 (注) 3	台湾 (注) 3	韓国	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,668	4,990	1,808	1,908	11,375	1,072	12,447
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,614	306	750	84	2,756	24	2,780
計	4,282	5,296	2,559	1,992	14,131	1,097	15,228
セグメント利益	766	1,050	556	339	2,711	135	2,847

(注) 1. 当第1四半期連結会計期間より、「日本」セグメントにおいて、中外化成株式会社の売上高及び営業利益を含んでいます。

2. 「中国」の区分は、中国及び香港の現地法人です。

3. 「中国」及び「台湾」セグメントには、永勝泰科技股份有限公司(その他 子会社4社)の売上高及び営業利益を含んでいます。なお、2015年2月20日において、永勝泰科技股份有限公司(その他 子会社4社)のうち1社を清算しています。

4. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、米国及びその他アジアの現地法人の事業活動を含んでいます。

2. 報告セグメントごとの資産に関する事項

当第1四半期連結会計期間において、中外化成株式会社を取得し、連結の範囲に含めています。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の資産の金額は、「日本」セグメントにおいて1,986百万円増加しています。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位: 百万円)

利 益	当第1四半期連結累計期間
報告セグメント計	2,711
「その他」の区分の利益	135
セグメント間取引消去	60
のれんの償却額	68
事業セグメントに配分していない損益(注)	115
その他の調整額	1
四半期連結損益計算書の営業利益	2,601

(注) 主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益です。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産における減損損失)

(単位: 百万円)

	日本	中国	台湾	韓国	その他	全社・消去	合計
減損損失	-	-	33	-	-	-	33

当第1四半期連結累計期間(自2016年4月1日至2016年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)3	合計
	日本	中国 (注)1 (注)2	台湾 (注)2	韓国	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,413	4,768	1,408	1,746	10,337	968	11,306
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,638	201	598	90	2,530	23	2,553
計	4,052	4,970	2,007	1,837	12,867	992	13,860
セグメント利益	316	1,108	396	318	2,141	141	2,282

(注)1. 「中国」の区分は、中国及び香港の現地法人です。

2. 「中国」及び「台湾」セグメントには、永勝泰科技股份有限公司(その他 子会社3社)の売上高及び営業利益を含んでいます。

3. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として米国及びその他アジアの現地法人です。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	当第1四半期連結累計期間
報告セグメント計	2,141
「その他」の区分の利益	141
セグメント間取引消去	36
のれんの償却額	63
事業セグメントに配分していない損益(注)	116
その他の調整額	1
四半期連結損益計算書の営業利益	2,139

(注)主として持株会社(連結財務諸表提出会社)に係る損益です。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	76円78銭	81円17銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,764	1,876
普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,764	1,876
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数(株)	22,977,210	23,117,288
(うち普通株式)	(22,971,810)	(23,084,963)
(うち第1回A種種類株式)	(5,400)	(21,600)
(うち第2回A種種類株式)	(-)	(10,725)

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
 2. 普通株式の期中平均株式数については、その計算において控除する自己株式に、株式付与ESOP信託口として保有する当社株式を含めています。(前第1四半期連結累計期間98,660株、当第1四半期連結累計期間74,390株)
 3. 第1回A種種類株式及び第2回A種種類株式は剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2016年8月1日

太陽ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 北地 達明 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 早稲田 宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太陽ホールディングス株式会社の2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太陽ホールディングス株式会社及び連結子会社の2016年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。